



み

宮参り

おばあちゃんの出番です



宮参りは、地域により違いますが、生後一カ月頃に、赤ちゃんを連れて、生まれた土地に宿る神様（産土神・うぶすながみ）に参る風習で、産土神社に赤ちゃんが無事に誕生したことの報告と感謝の意を表すものとされています。

宮参りは、インターネットで検索すると、赤ちゃんの両親と父方の祖母で行くというように書かれています。かつては、祖母が親せきの女性達と一緒に赤ちゃんを連れて行くもので、母親は家で留守番をしていました。これは、産後の母の体調を気遣った風習で、赤ちゃんたちが無事帰宅するのを、母親はじっと待っていたそうです。

この話を、子育ての文化研究所の研究

会で話したところ、2歳の子を持つ母親が、びっくりして、「自分だけが留守番していたので、除け者にされたような気持ちだったんですが、風習と聞いてスッキリしました。」と話してくれました。

産後二十日ほどで床上げ（敷いていた布団をしまうこと）しますが、それまでは寝ているようにということも、今では言わなくなりました。しかし、母親の出産時のダメージは、交通事故にあった位だと言います。みんな、産後の母親の負担が少なくなるように、気遣いたいものです。